

平成29年6月20日(火)

老球の細道336号

親父の小言

会津バスケットボール協会 室井 富仁

北会津に行きつけの酒屋さんがある。店主が「ミスターこだわり」で、自分が認めた日本酒しか置いていない。今やときめく幻の日本酒もその店主から連絡が入り購入する。店主の薦める日本酒で旨くなかったものはいまだかつて一度もない。

今は昔、稲刈りの終わった思い出の地坂下からの帰路、その酒屋に寄ったら珍しいネーミングの純米酒をすすめられた。原発事故で浪江町から山形県長井市に避難を余儀なくされている鈴木酒造店の『親父の小言』という酒だった。全国各地のお土産品の湯飲みやペナントなどでおなじみの親父の小言集がラベルとなっている。

処世訓「親父の小言」が浪江町発祥であることを誇りに思い、震災を乗り越えて多くの方々と家族の絆を固める一助になればと願い醸した酒だという。ミスターこだわりさんがすすめてくれた酒なので旨いことはもちろんであるが、一升瓶に張ってあるラベルの文句も酒の味を引き立たせてくれた。38の処世訓が記されている。その中から特に気に入ったものを紹介したい。

「朝きげんをよくしろ」「人には腹を立てるな」「人には馬鹿にされる」「借りては使うな」「不吉は言うべからず」「自らに過信するな」「火事は覚悟しておけ」「泣き言を言うな」「貧乏を苦にするな」「家内は笑うて暮らせ」「怪我と災いは恥と思へ」

「親父の小言」を読みながらチビリチビリやっているうちに、はて、私は自分の親父からどんな小言を言われたか思い出してみた。すると、たった三つしか思い出せなかった。「人にあつたらあいさつしろ」「世話になった人の恩は忘れるな」「勝負事は負けるな」。非常にシンプルであるが今でも頭に焼き付いている。

私が父親として子ども達に言っていた小言を思い出した。「頭と腹にはお金を使え」。学ぶことと食べることは人間を創る基本である。それにお金を惜しんでいては安物の人間ができあがってしまう。本を買え、世界中を歩き回れ、そのためにはお金を惜しむなど言い続けてきた。残念ながら食べることしか伝わらなかった。

「何事も目指すは超一流。ホンモノに触れろ」。今が二流、三流でも目標が高ければいつのまにかそのレベルに近づくものである。そのためにも何事においてもホンモノに触れ続けよ。たった一度の人生、ニセモノに触れながらチマチマ生きるな。ホンモノに触れながらドラマチックに生きたほうが、納得の上で棺桶に片足を突っ込むことができるだろう。

「ならぬことをならせろ」。ならぬことはなりませぬ。そんなことはあたりまえだ。ではなくて不可能だと思われることにチャレンジして可能にする。非常識と思われることを常識にしてしまえ。身長が小さくても大きい者に勝つ。地方にいても中央に負けるな。

子どもの年齢もよく分からない、どこの大学を受験したのかも分からないでいた「意気地なし(育児なし)」の私であったが、生意気なことを言っていたものである。「言うだけは誰でもできる」の原則によっていたのだろう。

子ども達や教え子達が後々に思い出してくれるような小言をもっと言っておけばよかった。くだらない、すべってしまうダジャレばかり言いすぎてしまった。願わくば、爺様と言われる年齢になった今、酒ではなくてTシャツやボールに「爺の小言」なんて。